

おじいさんの古時計について

★古時計のバージョン

(I) お伽バージョン

1. Chanterバージョン
2. 中村仁策バージョン
 - ①神戸中央バージョン
 - ②同志社混声バージョン
 - ③CCD 壬辰バージョン
3. ミミー宮島バージョン

(II) NHKバージョン

1. 立川澄人独唱+同声 2部合唱 (小林秀雄編曲)
2. 平井堅独唱 (亀田誠治編曲)

★(II)のNHKバージョンはすべて保富康午訳詞の「大きな古時計」であり、編曲者もそれぞれわかっているため、ここでは検討対象に加えないことにした。

★Chanterバージョン

Chanter 初版所載。歌詞は2節まで。細部に差異はあるが、広い意味で後述の門田ゆたかバージョンの歌詞である。

1) お伽の国の山よ 川よ 小人たちよ

シンデレラのお姫様よ 消えて今はいずこ

楽しい夜が訪れたのに 振り子の動かない

動かない おじいさんの古時計

2) 幼い頃の夢が いつも胸に浮かぶ

白いひげに丸いせいの おじいさんの姿

やさしい声は聞かれないけど あの日の時をさす

時計 時計 おじいさんの古時計

Ref) 楽しい夜が来た tick tock tick

あの日の時をさす tick tock tick

時計 時計 おじいさんの古時計

高橋秀明さんの遠い記憶によれば、学生時代（60年代前半）関西合唱連盟の夏季合唱講習会が高野山で行われた際、練習曲として配布された。当時の情勢からして神戸中央合唱団指揮者で連盟のエライさんでもあった中村仁策さん編曲のものかも知れないとのこと。ただ、次項に述べる曲集のものとは明らかに異なるので、中村さんが講習会のために特別に編曲し直したものかも知れない。しかし神戸中央合唱団のホームページ管理人の方の話からは、そういう異なるバージョンの存在は浮かんでこない。別の人の編曲の可能性も捨てきれず、現状では編曲については出典不明というしかない。

このバージョンでは Verse1、Verse2、Refrain となっており、その点で Verse1、Refrain、Verse2、Refrain となっている Work 作曲の原曲とは異なる。また終始メロディはソプラノにある。調性は変ロ長調で、いま検討対象としているもののうちで一番高い。

★神戸中央バージョン

中村仁策編曲 混声合唱曲集 3（神戸中央合唱団発行）の冒頭に載っている。歌詞は 2 節まで。歌詞は Chanter バージョンに基本的に同じだが、組み立てが異なる。

1) お伽の国の山よ 川よ 小人たちよ

シンデレラのお姫様よ 消えて今はいずこ

楽し夜が訪れたのに 振り子の動かない

時計 時計 おじいさんの古時計

(Ref) いつも楽しげに tick tack tick

ささやいてたのに tick tack tick

時計 時計 おじいさんの古時計

2) 幼い頃の夢が いつも胸に浮かぶ

白いひげに丸い背の おじいさんの姿

やさし声は聞かれないけど あの日の時をさす

時計 時計 おじいさんの古時計

Ref) いつも楽しげに tick tack tick

ささやいてたのに tick tack tick

時計 時計 おじいさんの古時計

神戸中央合唱団野嶋氏のご指摘により、同団の愛唱歌集である上記曲集を求めた。それに中村氏の注が掲載されている。次の通り。

『「おじいさんの古時計」は、戦時中、応召して中支にいたときに慰問袋に入っていたレコードの中から見つけた。この曲を採譜して隊内に配ったところ、大変評判になって、ほかの中隊からも注文が殺到した。

召集解除後、再び召集されて満州に渡ったが、そこでは、すぐあとに渡満してきた家族3人（妻と長女寿美子）でこの曲をよく歌った。

終戦後、ソ連に抑留されていたときには、男声合唱に編曲して仲間とよく歌ったが、帰還後は、混声合唱に編曲し、神戸中央合唱団で歌い続けてきている。

原題の *Grandfather's clock* の正しい語意は、振り子のついた人間の背たけよりも高いスタンド型の時計のことであるが、その原詞は、おじいさんの時代からの古い時計について語っているので「おじいさんの古時計」というタイトルとなっている。』

そこで二つ。一つは『慰問袋に入っていたレコード』の問題、もう一つはよく似ている他のバージョンとの関係である。一つ目は後述することとし、ここでは二つ目について考える。

この曲集の末尾にある中村氏のプロフィールに「昭和22年、ソ連より復員後、神戸中央合唱団の指揮者となり・・・」というくだりがあり、その年もしくはその次の年あたりにこの編曲ができた可能性が大である。当時まだ歌う曲が少なくかつ楽譜の入手がすこぶる困難な時代であった。コーラスメンの交流があるところ楽譜の交流もあったに相違なく、戦後まもなく復興された同志社混声合唱団や他の合唱団にこの曲が広まっていった可能性は非常に大きい。つまり戦後の関西の合唱界に果たした神戸中央の愛唱歌集（サリマライズもそうである）の果たした役割は大であると言わねばならない。

【コラム】近江兄弟社中学校長で作曲家の佐々木伸尚氏（夜の歌、小人の雪などの作曲者）からは、関学高等部時代にこの曲（お伽バージョン）を知っていた。自分が持っている楽譜、中村仁策編曲の神戸中央合唱団のもの、亡妻の神戸女学院高等部コーラス部のもので少々細部が違うが全体としては同じ物。多分米人宣教師が紹介したのではないか、とのコメントが寄せられた。閑話休題・・・

このバージョンは Verse1、Refrain。Verse2、Refrain という組み立てになっており、これがスタンダードの形と思われる。この編曲はメロディがあちこちのパートに移るのが特徴的である。Verse1 はソプラノ。1 節の Refrain 前半 4 小節はソプラノ、後半 4 小節がテノール。Verse2 の前半 8 小節はアル

ト、続く4小節はソプラノ、続く4小節はアルトに戻る。2節の Refrain 前半4小節は再びソプラノであと4小節はテノール。変イ長調。

★同志社混声バージョン

手許にある同志社混声の譜面は中村仁策編曲に酷似しているが、歌詞は1節（Refrain 付き）のみ。同じく変イ長調。「おぢいさんの古時計」となっており時代がしのばれる。提供いただいた澁谷先輩のお話では、中村仁策編曲「歌のアルバム」所載で昭和21～22年ごろのものだということだが、そうとすれば年が合わず、年代伝承より編曲伝承が正しいと思われることから、中村氏編曲が起源と考えてよかろう。森本先生編曲ということも考えられないではないが、そういう伝承もなく、99.9%譜面が中村バージョンと同じであることから、これの第1節のみをコピーしたものと考えて差し支えないと思われる。

★CCD 壬辰バージョン

これも澁谷先輩の提供によるもので、同氏が大学入学の年に入手したとのこと。譜面には「於壬辰 梅雨 為同志社学生混声合唱団 写譜 大口主」とある。澁谷氏の入学年は昭和27年であり、この年は壬辰にあたることから、同年の梅雨の時期に CCD に配布されたことが分かる。譜面はほとんど前二者と同じだが、何故か1節の Verse で完結してしまっている。変イ長調ということや、歌詞・編曲の同一性から推しても、これは前者（同志社混声バージョン）の孫引き／省略編とみて差し支えない。私が1957年ころ書き写した CCD の「庶務日誌」（今は散逸）にはこの曲は載っていなかった。1回歌ってハイソレマデヨの一つだったかも知れない。

★ミミー宮島バージョン

これが今回の大発見である。今年10月16日、日本テレビの「速報！ 歌の大辞テン!!」および12月2日同テレビ「ズームイン SUPER」で特集があった。

それによると、原題は「お祖父さんの時計」で、作詞は門田ゆたか、編曲：仁木他喜雄、歌はミミー宮島。昭和15年9月に日本コロムビアから発売された（当然 SP）とのことである。他に同時期のレコードがなければ、中村仁策さんが戦時中、応召して中支にいたときに慰問袋に入っていたレコードの中から見つけたというのはまさしくこれである可能性が高い。最近入手した「ズームイン SUPER」の VTR で確認したところ、第二次大戦直前の音楽とは思えないジャズ調、というよりディキシー風の、とてもモダンな編曲であった。タップの名手であったといわれるミミー宮島のタップが間奏部分に入っており、平井堅の歌うものとは別の曲のようである。昭和15年9月の発売から昭和18年までに5,173枚

(現在なら5万枚に匹敵するという)を売った大ヒットだったということである。ちなみにA面は「夢去りぬ」(歌:南雅子、スリーシスターズ)で、「お祖父さんの時計」はこれのB面だった。

門田ゆたかの略歴は次の通り。

門田ゆたか・・・本名 穰。明治40年1月5日福島市に生る。東京・長野・福島・宇都宮と転々として小学校を卒業。宇都宮中学に入り名古屋中学に転じ、早稲田第一高等学院を経て早稲田大学仏蘭西文科に学ぶ。西条八十に師事、詩誌「蠟人形」編集同人たりしことあり。音楽雑誌「ミュージック・ライン」を最近まで編集し廃刊、本年4月テイチク専属作詞家となる。日本作歌者協会及びRCF会員。代表作「東京ラブソディ」「林檎の樹の下で」「支那のランプ」等多数あり。(昭和15年レコード世界社刊「レコード音楽 技芸家銘鑑」による)

題名の「お祖父さんの時計」は原題 Grandfather's Clock の直訳であり、正しいのだが、これが戦後広まる際に「・・・古時計」と変わったのは、歌詞が「古時計」であるのに合わせたのであろう。おそらくは中村氏編曲の時点だろうと考えられる。

今見ると歌詞に若干の異同が認められる。下記は昭和15年に歌われた原詩であり、<>内は中村バージョンでの異同である。

1) お噺の国の山よ 河よ 小人たちよ

シンデレラのお姫様よ 消えて今はいずこ

楽しくしい>夜が訪れたのに 振り子の動かない、

時計 時計 おじいさんの古時計

2) 幼い頃の夢が 今も胸に浮かぶ

白いひげに丸い背中(せな)<せい>の おじいさんの姿

優しくしい>声は聴こえないけど あの日の時を指す

時計 時計 おじいさんの古時計

この曲が録音された時代を考えると、非常に現代的(戦後的)な、口語体の歌詞であることに驚く。この歌の中に応召中という異常な環境にあった兵士たちがひと時の安らぎを覚え、戦地での珍しい隠れたヒット曲となったのではなかろうか。

異同は異同として、現在伝わっている歌詞の「作詞」者を『門田ゆたか』と明記することは間違いではなく、かえって 62 年前の先覚者を顕彰する意味合いからも、ふさわしいことではないかと考えるものである。

ここまで調べてもなお Chanter バージョンの編曲者は不明である。いつの日かこれが明らかになる日を願いつつ、本稿を閉じる。

検証にあたっていろいろデータを提供いただき、調査にご協力賜った下記の方々に深甚の謝意を表すものである。

2002 年師走 わっきー こと 協地 駿

記

(順不同・敬称略) 前窪一雄、渋谷昭彦、高橋秀明、門田勝・節子、佐々木伸尚、神戸中央合唱団野嶋、ザリガニこと炭野誠